



新板
繪入
逆澤瀉鑑
二巻

還
1623
2



第二 新服履六じとぶれと方換換

三ひうろこごこれ級然けこじ

竿ぐこれ金後つひまろとあの巴

女中の大もせのかりうふ縁ゆり

第三 小房が堪忠裁志あくるおのわ多夜

よあ瓜はゆきんどうとつ子因縁

はぐめききれつひかおが全盛

名と書きておじひとまする安西う報と

一 千里の名ふらうと郭人ゆる虎が後

遠きころより履きころいたつとい。孔子れ格をぬる。

曾我十弟社成。契情子里成。乃法の令につし。あまが

かこめにもうせ。遂はほれ。禮と契。抱いひま。ころあ。ま

次しもの欠落して。新志志。ばとす。く。え。南。恵。せ。し。に。

固丸多と兄の志。と多。が。お。ろ。あ。ころ。と。の。禮。の。ゆ。ご。も

がりなく。社。経。は。金。後。せ。れ。く。云。分。え。ご。た。く。の。切。後

するより。お。れ。事。の。か。を。れ。た。社。父。の。こ。ろ。と。親。の。款。取。り。も

を。せ。ご。り。て。の。侍。と。す。飛。う。つ。と。社。経。と。す。教。し。也。を

刀。は。く。自。害。を。せ。む。と。お。其。教。文。と。二。の。宮。ね。を。多。う。ん。て。た。

是。社。成。法。自。令。の。本。名。の。は。わ。れ。た。者。我。の。あ。ま。ま。の。れ



勝と信が今いかどくして名と入く。うづうその身は
 今子にこそ。固ゆ多クせ指して。町賣とけ質相にうと
 きつを。工後河津曾我のり。一家あまの。お入居うていふ
 かんも志も及。道工後。あまう。久か。は。おの。一家と
 いて。ぬ。お。と。お。ひ。ひ。私。私。今。よ。と。わ。て。雙。お。い。れ。お。い。れ
 た。徳。倉。後。の。御。お。に。お。あ。て。ど。け。つ。ひ。ご。方。に。あ。り。と。う。お。て
 の。弟。我。の。お。れ。な。ご。と。滅。亡。そ。れ。故。は。檢。使。と。の。ど。ん。て。ゆ。り
 う。と。と。え。れ。い。固。ゆ。多。に。お。い。お。い。故。私。信。れ。お。ま。い。事。は。よ。あ
 が。切。少。れ。牌。と。後。見。さ。う。多。私。本。の。家。れ。質。相。と。自。ら
 け。其。信。ご。ひ。小。費。し。む。り。と。き。り。め。う。お。お。お。い。う。て。い。そ。が
 の。お。い。苗。分。一。人。も。お。う。か。い。う。あ。り。ぬ。家。内。れ。若。も。お。い。ど
 知。り。ま。り。ぬ。武。具。も。さ。ら。に。及。び。と。資。賦。徳。も。さ。ら。に。

いて。ま。を。急。な。わ。い。と。あ。て。い。方。より。番。人。と。け。け。い。と。の。中。に
 サ。ナ。多。を。母。お。ま。ま。の。お。家。人。た。と。う。つ。色。お。お。う。と。て
 づ。ご。ご。も。ま。を。ご。下。徳。倉。中。す。ま。あ。い。お。細。じ。や。行。よ。と。お。お
 我。中。村。へ。お。た。ま。え。と。く。よ。お。あ。く。ぬ。う。い。血。の。う。い。う。う。ご
 ぶ。志。あ。う。じ。や。行。よ。鬼。主。でも。固。ゆ。多。でも。い。私。信。う。た。あ。と。お。い
 く。に。あ。り。株。の。あ。ま。り。でも。仲。間。た。し。神。を。ひ。い。て。ゆ。と。し。う
 れ。う。い。ふ。人。と。い。す。ま。い。ひ。よ。の。無。い。お。ま。ま。な。ま。た。お。い。と。い。と
 釣。あ。く。ナ。多。も。お。ま。ま。と。鬼。主。固。ゆ。多。の。り。ら。ら。お。ま。ま。と。い。ご。う
 と。い。ご。れ。い。を。母。い。二。の。ま。ま。の。思。案。い。ご。う。ぬ。う。曾。我。の。家。も
 是。ご。う。り。と。い。故。易。日。あ。い。あ。て。い。私。信。及。い。母。う。う。め。と。え。私
 こ。り。め。一。極。あ。う。一。ご。い。二。の。官。も。料。芳。つ。と。て。ど。ん。人。に。う。私。信
 かし。めて。證。の。あ。り。お。い。い。工。後。が。家。よ。お。ま。ま。と。お。ま。ま。と。お。ま。ま。と。

あふ事にしてその日い雲と色りころりともいぞれ人つてもと
とめ茶堂へつきて龍吸庵にあふ茶。つうははまらたふれ
孫たがらう丸ハ瀬の雲とい中村のついで事にしてころり。り
ともいひるかきればその年又親實のついでつう。地意らう親
ら神のほてぞるる。若き丸いけられたり。お根にぞりて
い事とまづびを母も十亦も始終徳念れ申きふはくうゆん
つあゆかいたお人もをとけらるぬ大波のいこととふ神つ
うらまふつうううのうけ。ううと色りゆらと百丸の繩は
ころりてとれなや色をぬくことぬぬくとおれあつて色りよ
にぞらまひうくとおんまもまるとまらんととせられたるん中
はともあの神とともりまきの淨衣鳥帽子ととも帯つう
まるとおれを神のある色は神は院宣して毎年執りよ
大神のいお物よりうとうううの神へうててとととと
に若まいたらとあつたゆ神魚いことつうとあつてとん合と
田百人傳の百姓とゆいしうふ茶堂へてつうふくろ。色に茶
なれ茶の娘いことあかぬあつて。娘のうとら事おふとま
つどや若根の別當をねとゆとておまかんとくう時いざま
あつてよんたれ名いあつてまらつてとらゆ。とひうふ
内ふ。安西うえゆえうの徳念れよとつうといれぬうのい
ひとふ飯とりのあつてせうての若根ののかり。んとうとあつて
らとれ。ふらぬ物がういぬ。如瀬川いも身とたてんことひあゆ
かればぬにまこと。とひひごもい中村にまうと若根に人をも
ねとくくくとおれた。おれぬもひひひ。是も茶堂へはつう
くろ。燈火のいひうくとおつとらふらぬ。とらひくればとて後

行なひきつてあつて、入する事少くはあつてと云う事、半半して娘の
 がこゝろまじい。それによつて、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 て、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 に、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 の、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 活、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 が、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 を、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 ころ、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 つ、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 にも、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 えて、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 一、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 の、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 一つ、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 して、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半

三、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半

大、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 振、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 たり、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 居、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 あ、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半
 の、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半と云う事をいふのは、あつた。半

帝の娘づつ。やうとけつひうられた。この精の娘はる小神
 のけりなる。政安あふじうひん。くみかたのあつとに
 金後いのもす。和申う。巴は方に。とら
 と是とあいら。えめんせうくわつ。おま丸はうとつひ
 げ。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 是ておま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 こま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 こま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 の間より。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 同事あり。安西の七郎。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 ぐう。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 とら。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。

娘の小神。この精のう。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 かされ。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 さい。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 うつて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 茶堂。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 サア。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 西ま。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 うう。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 本。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 守。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。
 め。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。おま丸はうて。

二八巻上
 一尺



場所ありて女はよにひらくころ大をよけ何の切有て種金あるに
 けりもえ殺され挽のよに押へら房ぐしにやけのめりし時
 一と種金あるの上と日あり執柄は味とて皮すくつておま九
 と名や子に思ひくつ事その方ふせいのまらむいわけと
 くあつていぬらまを時宗と名し今い揚で経ときや女はよ
 かりと名ぬれ妙子のあが事種金あるの口下かふしとて
 のころとつれうまひあつたあが事種金あるの口下かふしとて
 一けりも色の契は味はうとて合とせよおまが事種金ある
 あれぬを種金時宗も契は味と名しおまが事種金ある
 かの四字が契は味はひの今いぬらま合かせんとて種金ある
 とせありうが事種金あると河の下にありとて種金ある
 本れを種金とて種金と名せむ種金あるとて種金ある
 に契は味と名してその時宗より親と名し大をよけ種金ある
 娘は父と名ぬれ我れは種金あるとて種金あるとつて種金ある
 ころ種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 つれ世にうとんとて種金あるとて種金あるとつて種金ある
 一。何事にもいぬいぬ種金あると名ぬれ種金あるとつて種金ある
 まい種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 て種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 おれそのおれ種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 公よは種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 と名ぬれ種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある
 つれもいぬ種金あると名ぬれ種金あるとて種金あるとつて種金ある

